



OVERVIEW



富士スピードウェイで行われた、フォーミュラチャレンジ・ジャパン第3戦、第4戦の結果をご報告させていただきます。鈴鹿サーキットでの開幕戦に比べると、2回のセッションで7番手を獲得できた公式合同テストの結果からも自信を持って挑むことができました。しかし、同様にライバルたちも手強くなっており、一瞬たりとも気が抜けない僅差の戦いとなりました。レースデビューから3戦、4戦目を経験し、経験の少なさ故のミスがありました。たくさんの反省点を見出し、自分の弱い部分を知ることができたので、次回のレースが楽しみです。

Qualify 1

Pos: 9 Best time: 1'44.357(+0.000)



金曜日から2セットのみ使用することができるタイヤの2セット目を装着し、ニュータイヤで挑みました。まずは5周して感覚を掴んだところでクーリングラップを挟んでタイムアタックをしました。完璧にはいきませんが、43秒台まであと一歩となり、もう少しでトップ5に手が届く実力が付いてきたと思います。最終ラップで安田選手にスリップを使われ、井口選手にも僅差で負けてしまいポジションを守りきれなかったことが残念でした。今の自分にとって、精一杯の結果となってしまったことがとても悔しいです。

Qualify 2

Pos: 20 Best time: 1'45.352(+0.000)




10分のインターバルを挟んで行われる第4戦予選では、路面が汚れたりすることがないので、1周目からハードブッシュする予定でした。クリアラップが欲しかったので、ピットロード先頭に並んで一番にコースインできました。今回のレースは、全セッションで一番にコースインをして、走行距離を稼げたので良かったです。2周目に高速コーナーでリアが滑ってしまい、カウンターステアで170km/hの速度で外側の縁石に乗ってしまった影




響で、(後にピットで分かったことなのですが)右フロントのタイロッドアームが下向きに「くの字」に曲がってしまっていました。高速の100Rと後半セクションにかけて特にアンダーステアが激しく、45秒台で頭うちになってしまいました。結果的に、タイロッドが短くなってしまったのであるコーナだけアンダーステアに感じていたようです。最後の2周まで同じタイムを刻み続け、最後のアタックでなんとか0.5秒縮め、20番手となりました。がむしゃらに攻めてもタイムが出ず、どんどん焦りが沸いてくる状況で、自分のミスで自分の首を絞めたということが良く分かった予選でした。また、車の特性としてあのような状況での路面からの突き上げ時に、サスペンション系の強度が不足しているという事も分か

りました。今度同じような事態になった場合は、力を逃がしてダメージを少なくしたりも出来ると思います。

Final-race1 Start Pos: 9 Finish Pos: 10 Best time: 1'45.229(+1.356) 

公式予選終了後、お昼過ぎから第3戦決勝が行われました。スタートは右後方から1台に抜かれてしまいましたが、100Rで抜き返し、ヘアピンでの#27のミスブレーキングに乗じて6番手くらいまでジャンプアップすることができました。しかしネッツコーナーにて、#27に突然インを刺され、立ち上がりで全くラインを残してもらえず、コース外まで押し出されてしまいました。すぐに切り返しとなる最終コーナーでは、後続を抑えつつ、少しでもホームストレートに向けて速度をのせることができるラインをトレースしようと努力しましたが、速度の伸びを失っていて成す術なく抜かれてしまいました。その後は見せ場を作ることが出来ず、前方は4秒、後続は6秒離れた一人旅となり10位でフィニッシュしました。懸命に走りましたが、このレースでの課題はベストラップが遅かったことです。

Final-race2 Start Pos: 20 Finish Pos: -- Best time: -'---(+0.000) 

レースは20位からのスタートでしたが、ポイント獲得を目指すべく、シングル圏内でのフィニッシュを目指しました。自分に良い意味でプレッシャーをかけるためにも、周囲の人々に宣言して挑みました。集団がばらける前の1周目で、少しでも多くの車を抜くことがキーポイントになると思いました。6000回転ほどで回転を留め、ストールさせないように全神経を集中させ、シグナル消灯の抜群のタイミングで発進しました。強烈な牽制に阻まれましたが縦横無尽にコースを使って、ポジションをあげていきました。Bコーナーではアウトサイドから#27とブレーキング勝負をし、競り勝ったのですが、間髪を入れずにやってくる左コーナーで、真横にいるこちらの存在を無視したかのように切り込んできたため、イン側のダートに避けて失速してしまいました。本来有利な立場である自分の状況をいとも簡単に奪われてしまったのは、相手のレース経験豊富な技術に翻弄されてしまったように思います。レースの1周目は9台を抜き、11番手でホームストレートを通過しました。しかし、オープングラップの1コーナーでクラッシュがあった模様で、ホームストレートではイエローフラッグが提示され、追い越し禁止の状態になっていました。この時に後続がスリップストリームを使い、自分を抜いていきました。1コーナー手前の250m付近で、抜いていった相手も黄旗に気付いてバックオフしようとするような動きを見せましたが、ここで順位を戻されても、オフィシャルの目には自分が抜いたように映ってしまうと思ったので、ひとまずバックオフしました。加速勝負に備えて後ろに付いて旋回したのですが、クリップを過ぎたあたりでも前車が全く加速せず追突してしまいました。よく分からないまま、上手に処理をできずに黄旗区間で接触してしまっ



たことを深く反省しなければなりません。1周目で良い闘いを見せたのに、何も焦

ることではない「安全を最優先に考えて速度を落とす」区間で接触してしまったことは本当に悔やまれます。良い面もあるのになかなか結果に結びつかないことは、自分がうまく周りの状況を呑み込めておらず、コントロールできていない証拠です。

レースは接触の影響で、サスペンションカバーのネジ穴が破けてまくれあがってしまいました。ノーズにはダメージがほとんどなかったのですが、元に戻ることを願って、視界がなくなったまま後続を抑えて走りましたが、ホームストレートに戻ってきて断念し、ピットインしました。部品を装着することができず、予備パーツも使用できなかったのでレースには復帰できず、リタイアとなってしまいました。また、グリッド線をわずかに越えて車を止めてしまったので、抜群のスタートもフライング裁定を受けてしまいました。ピットでリタイアが決定し、フライングスタートの事実も知って、空回りしてしまっているな、と思いました。今回の出来事をしっかり胸に刻んで慎重に、次回は落ち着いて走りまします。中団でのスタートでも、上手くすり抜けていく技術はあると思いますので、見て下さっている方々に”最後まで”良い走りを見せたいので、本当に頑張ります！ 今後ともご指導、ご声援の程を宜しくお願い致します。

フォーミュラチャレンジジャパン
FTRS中谷塾FCJ カーナンバー24 稲垣 智彦